

夢、私たちに。 わたしのひとこと



白馬はネタの宝庫

三日市場 永井 勝則

白馬村に引っ越して来てはや8年、晴耕雨読と犬の散歩の毎日を送っています。移住者であるわたしが思うのは、実は白馬村のチャンスはそこら中に転がっていて、在住者こそその価値に気がついていないのではないかということです。

春先の放射冷却の朝、前日に少し解けた田んぼの雪はかちかちに凍っています。わたしは1年でこの時期にしかない田んぼの上を自由に歩ける散歩が大好きで、白い山がオレンジ色に光る5分間を初めて見たときは神様のレイアウトかと思いました。

たとえば春の雪形。どれが何の雪形か分からないわたしは、実際の山に透かして見る、山と雪形を縁取りそこに山と雪形の名前を書いた下敷き（もしくはメガネ）があれば、面白いだろうなあと思います。

白馬へ向かう冬のバスの中、中条村辺りで白馬三山が一瞬見えたとき、オーストラリア人の子供は「オーマイガー！」と叫んだと、我が家に来た友人が言っていました。



2008年の和田野

和田野 岡田 久子

和田野区の話である。スキー客の減少に歯止めのきかない昨今、オーストラリアを始め外国人スキーヤーがスキーシーズンを支えてくれていると言っても過言ではない。来場者が多くなれば当然投資目的の人も出て来るわけで、図らずも区長という立場で対応する事になった。村には「環境保全と開発のきまり」があり、区には「住民協定」がある。その中で、活性化か景観形成保護か、地元、事業者、行政によって論議された。特筆したいのは、その資料作りに連日連夜没頭して下さった委員の方達である。資料をもとに住民に情報開示し大型開発の建設か否かを判断してもらったところまでに及んだ。しかしながら、世界同時不況によりあっけなく幕が下りたのである。そこで学んだ事は、村のルール。区のルール。それに順じて如何に後世にこの自然と活性化を残すか長期的ビジョンの必要性。地元を知る村を知る、この事の大事さを教えられた1年であった。



生かされていることに感謝

森上 宮嶋 夕子

今まで健康だけが取り柄だった私ですが、去年1月、突然ガン宣告を受けました。ステージ4『進行ガン』すぐさま入院、手術。そして抗ガン剤治療。それから1年半、決して一人で頑張ってきたわけではない。家族や周りの仲間、友人、ガンをきっかけに知り合った方、皆さんの励ましや応援、そして温かい協力があったからこそ、今、こうして生かしていただいているのである。感謝の気持ちでいっぱい。私自身『生き方』について、とことん考えるようになった。人生のゴールに向けて、何をすべきなのか？どう生きるのか？生きている間に自分磨きを！周りの助けてくれる人たちに対して自分ができたいことをしたい！私にとってガンになったことは決して悪いことばかりではなかった。生きるためのたくさんの気づきを与えてもらうことができたのだから。今まだ身体の中に、ガンはいるらしい。けれど、私は大丈夫！「今日も生かしてもらっている」それだけでもありがたいのだから！

編集後記

先日、観光に活かせないかと五竜観光協会・観光農政課・議会とで嶺方スキー場頂上から西に降りる樵の道を初めて歩いてみました。北の方向に200〜300メートルほど歩くと、1メートル幅の小道を見つけました。暫く平坦なところがあり、そこからいきなり直線に近い下り坂となり、ほとんどが広葉樹林のなかを黙々と歩くこと40〜50分、飯森のゴルフ場の上部に出了ました。一部わかりにくい箇所がありましたが、少し手を入れると秋の紅葉などが楽しめる手軽な散策コースになるかもしれません。天気も良く、眼前に広がる北アルプスと、森林浴は一服の清涼剤となりました。 田中榮一記

議会報調査編集特別委員会

議長	下川 正剛
委員長	田中 榮一
副委員長	渡辺 俊夫
委員	横田 孝穂
	太田 伸子
	太田 修
	小林 英雄
	太谷 正治

白馬議会だより 89号
平成21年7月31日発行

発行 長野県白馬村議会
編集 議会報調査編集特別委員会
印刷 ㈱北辰印刷

〒399-9393 長野県北安曇郡白馬村
☎0261-72-5000 FAX0261-72-7001
http://gyosei.vill.hakuba.nagano.jp/gikai/ E-mail gikai@vill.hakuba.nagano.jp



白馬議会だよりは、古紙率100%の再生紙を利用し、環境にやさしい植物油型インキを使用しました。(北辰印刷)